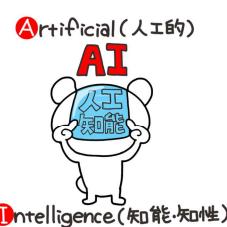


ひまわり



令和5年2月20日(月)

AIについて考える



いつの頃からか「AI=Artificial(人工的な) Intelligence(知性)」という言葉が頻繁に使われるようになりました。日本語では「人工知能」と訳されています。この研究は、1956年から始まりました。以来、70年近くの研究で、今では皆さんの身の回りでも人工知能の技術が応用されています。冷蔵庫や洗濯機などの家電製品の制御、自動車の自動運転、顔認証システム、医療における画像診断システムなど、多くの有益なことがあります。

ところで、最近話題になっている「チャットGPT」というものがあります。これは、質問に対してAIが自然な文章で答えてくれるもので、これまでのインターネット検索は、調べたいキーワードを入力すれば、関連するサイトに導いてくれるものでした。これに対し「チャットGPT」は、質問に対して文章で回答してくれるのです。

昨日、初めて「チャットGPT」を使ってみました。「星 新一の『ボッコちゃん』の読書感想文を400文字内で書いてください」と入力すると、わずかの間に日本語として違和感のないものが表示されました。また、「人が生きていく上で大切にしなければならないことは何ですか」と入力すると、「他者への思いやりや配慮」「正直さと誠実さ」「学び続けること」など、複数の項目とその補足説明が表示されました。まるで人と対話しているかのようでした。人工知能の研究は急速に発展しています。現在ではAI自体が学習することで進化し、その精度が高まっていく機能も持っているそうです。

しかし、「チャットGPT」を使って思ったことですが、質問の仕方や内容によっては、誤った回答が出てくることもあります。また、先ほどの読書感想文の例のように、学生などがレポートを提出しなければならない時に、人工知能を使い不正なレポートを作成するということも考えられます。そうなれば、そのレポートは不正であるばかりか、創造性のかけらもないものとなってしまいます。大げさな言い回しかもしれませんが、人が人工知能に支配されているとも言えるのではないかでしょうか。

人工知能の概念が提唱された時、それはきっと人の生き方を豊かにすることが基本理念にあったのではないかと想像します。確かに、人工知能の進化によって、私たちの生活が豊かになった側面もあります。しかし、人工知能を活用する人の意識や使い方によっては、人類を退化させることにもつながるのではないかと心配しています。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

